

# 駿東新聞

第12号  
H20 1月

発行人  
医療法人社団  
すしとよる



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年の冬は暖かい日と寒い日の差が極端の様に体感しております。

地球が体調を崩しているのかも知れません…。

新年早々、暗い話もななので、明るい話題にしましょう。

当院の理学療法室にて、いつも元気な笑顔をふりそいでくれている森山さんが、今年も年女ということ、ためになるお話をしてくれました。ではどうぞ。

## しづみの泉

明けましておめでとうございます。

今年の子年という事で、年女である私の話に少しおつきあ下さい。

年女というとは、という間に年齢がわがてしまいますね。女性は何人か集まると、

「Aさんは子年だから〇オホよ。」とか、「Bさん、ちろちろして子年、はいよね〜」など、十二支の話でかなり盛り上がる事ができます。

そもそも十二支のそれぞれは、一年の季節の巡りに伴う、自然界の命のサイクルを表すとされているそうです。お馴染みの十二支獣のイメージが定着したのは、紀元

90年頃と言われ、後漢の王充という人が、十二支のそれぞれが表す概念に近いイメージの動物をあてはめて普及を図ったとされているそうです。(初耳書にはおはね台)

今振り返ってみると私の生まれた1972年は第二次ベビーブームで同じ位の年の子が沢山いました。今とは違い、外で遊んでいる子も沢山いて、近所は子供達であふれていた様な気がします。

一回目の年女になる12才の時は友達も塾に行き始めたり、母親がうそ「勉強しなさい!」と、よく怒られた記憶があります。あの頃は、何てうるさい母親だろうと思、ていましたが、今になって自分が子供を育ててみると母親の気持ちもわかる様な気がします。

24才は結婚ブームでした。その頃、クリスマスケーキは、クリスマスは高価で売れるけれど、残ったケーキはなかなか売れないという話題もあって、ほとんどの友達が24、25才で結婚しました。

そして、今年三回目の年女、36才になるのですが、今では子供にも手が届かなくなり、自分の為に使う時間が増えました。その時間を使って、私なりに料ける事にしたいです。

「光陰矢のごとし」とありますが、年を重ねる度に一日が早く過ぎていくことを実感します。48才・60才になって振り返った時、後悔する事のない様に、毎日を大切に過ごしていけたらいいなと思います。

みなさん、今年もよろしくお戻しします。



## 院長の一言

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願ひ申し上げます。

今年の干支は子(ねずみ)。十二支の一番最初ですね。12年で1回するというのは、何とも東洋的な印象を受けます。森羅万象、人間の成長などをじっくりと見つめ、それらの間に周期性、さらには12年で1区切りとした新たな発展段階・節目を迎えることなどを、悠久の歴史の中で見出したのかもしれない。

天変地異・株式市場・政治などは干支に絡めて語られることが多い様です。さて、今年の年女は理療の森山さんです。いつも元気で階段まで笑い声が聞こえます。今年もこねずみのようによく働いてくれるのを期待しております。

## Hi+omi's Room2

私事ですが、今年平成30年1月30日に成人式に行きました。私ももう大人の仲間入りをしました。私は裾野市民だったので、裾野市の成人式に参加してきました。朝の4:30に起きて美容院で眠たいながら髪の毛のセット、メイク着付けをしてもらい、いざ成人式へ。

中学を卒業してから一度も会っていないが、友達と感動の再会をし、いつのまにかみんな大人、いびく振袖の似合う女になりました。みんなで写真をとったり、昔の話をしたり、「今、何や、てるの?」と聞きあひ、久しぶりに話をし、とても楽しい1日でした。色々成人をむかえたということで、大人としての自覚を持ち、何事にも取り組んでいきたいです。

最後に、みなさん今年もよろしくお願ひします!!

